

いいだ 市議会だより

No. 189

平成26.1.21

編集/広報広聴委員会 発行/飯田市議会 〒395-8501 長野県飯田市大久保町



R100
古紙配合率100%紙



第4回定例会開催

議会報告会

ズバリ市政を問う(代表・一般質問)

②

③

④⑤

橋北公民館事業でおこなわれた
餅つき交流会の様子

第4回定例会

飯田市部等設置条例の一部を改正する条例、飯田市ポイ捨て等防止及び環境美化を推進する市民条例など54議案を可決・同意・承認



本会議の様子

定例会のあらまし

第4回定例会は、11月27日から12月19日まで23日間の会期で開催しました。災害に伴う平成25年度飯田市一般会計補正予算(第4号)の専決処分をはじめ5件の案件が報告され、いずれも報告のとおり承認・確認しました。

また、飯田市部等設置条例の一部を改正する条例、飯田市ポイ捨て等防止及び環境美化を推進する市民条例などの議案48件が上程され、人事案件3件を本会議で同意、除く45件のうち44

件は、所管の委員会での慎重な審査を経た後、いずれも本会議で原案のとおり可決しました。

請願・陳情については、陳情1件が提出されました。最終日の本会議での委員長報告に対して反対の意思表示があり、採決の結果、賛成多数で委員長報告のとおり不採択となりました。

また、代表質問、関連質問、一般質問では、17人の議員が市政全般にわたる質問を行いました。4ページから紹介します。

議案に対する質疑と審査

提出議案等については、総務、社会文教、産業建設の各常任委員会に付託し、集中的に審査しました。

この中で、産業建設委員会では、「議案第171号」の審査において、議員間「自由討議」を実施し、議論を深めました。質疑等の内容は、6ページからの常任委員会のページで紹介します。

本会議での反対の意思表示

委員会における陳情を不採択とする審査結果に対し、本会議で反対の立場から意思表示がありましたので紹介します。なお、陳情審査の詳細は総務委員会の6ページをご覧ください。

陳情第6号

国に対し、特定秘密の保護に関する法律制定に反対する意見書を提出願いたい。

■不採択としたことに反対

特定秘密保護法案に対する慎重な審議を求める意見書の提出について

国会での特定秘密保護法案審議の過程においては、多くの国民が不安を感じる中、十分な審査が行われているとは言い難い状況があったため、12月5日に「特定秘密保護法案に対する慎重な審議を求める意見書の提出」に係る議会議案を全会一致で議決し、同日議長名で衆参両議院議長、内閣総理大臣に意見書を提出しました。

同意した人事(敬称略)

- 固定資産評価員 宮沢 孝明
- 人権擁護委員候補者推薦 福田 弘子
- 飯田市駄科財産区管理委員 下平 正

議会報告会に510人のご参加ありがとうございました

10月2日から10月15日まで、市内6カ所で開催した議会報告会には、510人の市民の皆さんにご参加いただきました。貴重なご意見、ご要望をお寄せいただきありがとうございました。

※ブロック別の参加者は次のとおりでした。

ブロック (開催日)	遠山 (10/2)	西部 (10/4)	中部 (10/7)	北部 (10/9)	飯田5地区 (10/11)	竜東 (10/15)	合計
参加者数	67人	49人	114人	89人	119人	72人	510人

年度	H21	H22	H23	H24	H25
参加者数	457人	469人	444人	461人	510人

報告会をとおして市民の皆さんから寄せられた意見要望等は208件で、内容により次のとおり委員会等に振分けました。

総務	社会文教	産業建設	リニア特別	議会運営	代表者会	議会改革 (代表者会)	広報広聴
45件	28件	51件	6件	1件	1件	2件	74件

振分けた意見等は第4回定例会の委員会等において、市に申し送る事項、議会で扱う事項に仕分けし、議会で扱う事項については、

- ①委員会として調査研究する課題とする
- ②調査、研究は行わないが行政評価の対象とする
- ③その他(聞き置くこととする)以上3つに仕分けしました。

今後、議会内でまとめを行い次年度へ繋げていくとともに、抽出した課題等は次回の議会だよりでお知らせします。

フォトレポート

北部、飯田5地区、竜東ブロックの議会報告会の様子を紹介します



10月11日開催 飯田5地区ブロック全体会の様子



10月11日開催 飯田5地区ブロック第1分科会の様子



10月9日開催 北部ブロック第2分科会の様子



10月15日開催 竜東ブロック第3分科会の様子

市政を問う!

代表質問

代表質問とは、各会派を代表して一人が市政全般について質問するものです。会派の意見を次年度の予算に反映させやすいよう飯田市議会では12月(第4回定例会)に行っています。代表質問の概要を紹介します。(質問順)

※■は、そのほかの質問項目 ●関連質問は項目のみ

会派 のぞみ

湯澤 啓次 議員

Q 就任10年目に寄せる市長の想い、総括と今後の展望は。

A 「ニッポンの日本」と称される当地域固有の環境・文化を継承し、仕事だけでなく、家庭や地域も大事にする人が多く住む飯田をつくっていくために、市民の皆さんの「結い」の力を結集し、その先頭に立って市政経営にまい進する。

Q リニア中央新幹線環境影響評価準備書への意見書に対し、JRR東海から事業者見解が示されたが、その評価と対応は。

A 事業者見解については現在精査中であり、評価はこれからとなる。市民の不安や懸念を払拭し、着実に工事を進めていただけるよう、市はもろろん市議会、さらには各地区や飯伊地区期成同盟会からの意見に対する見解の内容も踏まえて、事業者見解を精査し、県に対しての意見の取りまとめを行いたい。

Q 予算編成について環境文化政策について持続可能な地域社会、南信州定住自立圏形成について

Q 南信運輸免許センターの取組みと体育施設整備、指導員育成の考え方について

公明党

村松 まり子 議員

Q リニア時代を見据えた地域づくりにおける「拠点集約連携型都市構造」及び「道路軸」の考え方は。

A 市内各地区を「地域拠点」、そのほかに「交流拠点」「中心拠点」を定めたい。リニア駅を「広域交通拠点」とする。その上で、各拠点を有機的に連携させ、また緊急・医療施設へのアクセスを確保するため道路軸を設定している。定住自立圏の中心市としての役割を踏まえ、圏域住民の命と暮らしを守るため、安全・安心で信頼性のある道路軸を目指している。

Q 次世代交通網を見据えて、研究機関の誘致や他地域にない企業誘致を積極的に推進すべきだが市の考えは。

A 新たな交通インフラの整備は当市の企業誘致活動にとって大きなチャンスと捉え、南信州地域産業活性化基本計画に基づいて「高度ものづくり産業」、「地域風土密着産業」、「頭脳活用産業」の3分野を中心に誘致活動を行っている。

Q 市長の政治姿勢と予算編成について医療・保健・福祉行政について教育行政について防災・減災対策について子育てに関する諸施策について

市民パワー

清水 可晴 議員

Q 若者から、おしやれでわくわくするまちをとの声が寄せられた。市でも若者が魅力を感じるようなまちづくりを進めるべきと考えるがどうか。

A 地域を見つめ、地域資源を掘り起こし、地域の個性を確立していくことこそ、若者にも選択されることになると考える。

Q 第2期中心市街地活性化基本計画における桜並木の再整備等今後の整備方針は。

A 動物園、りんご並木、中央公園、桜並木を緑のネットワークでつなげ、回遊性や、賑わい創出に繋がる整備が必要だと認識している。桜並木整備計画を策定する中で地域と連携し、賑わいを創出するための手法について具体化を図っていききたい。

Q 予算編成の重点事業・長期財政見通しと行財政運営について活力ある産業振興について保健・医療・福祉・介護の充実について人づくり教育について中山間地域の活性化策について環境に配慮した安全・安心の持続可能なまちづくりについて

Q 社会問題化しているスマートフォンから離れられない子ども達の発育、発達への影響と対策について

日本共産党

後藤 莊一 議員

Q これからの人口減少時代のまちづくりに、どう取り組むか。

A 人口減少の問題は、大きな課題であるが歯止めをかけることは容易ではない。持続可能な地域であるためには、地域資源を生かし、個性豊かな地域として存在し「住み続けたい」「住んでみたい」と感じられることが大切である。今後も「産業づくり」「人づくり」「地域づくり」に全力で取り組んでいくことがより重要となると考える。

Q 市として、浜岡原発の廃炉を求めるよう各機関に働きかけてはどうか。

A 原子力エネルギー活用の方角性については、国レベルにおいてしっかりとした議論をすべき課題であると考えます。エネルギーについては、一つのエネルギー源に過度に依存することのない、ベストミックスなエネルギー供給体制が望ましいと考え、そうした中で本市においては、再生可能エネルギーの利活用を地道に、かつ着実に推進している。

Q 庁舎整備について

Q リニア中央新幹線計画について

会派 みらい

原 和世 議員

Q 今、教育委員会も変革を求められる時期にきていると考えるが、地育力向上のための人材育成の施策について、学校教育と切り離してはどうか。

A 地育力を高め、これを活用した教育を推進することは、教育委員会と大きな方針を共有している。それにより様々な事業を推進し、成果も上がったと認識している。

Q 県教委が示した中学生の部活動における、朝練習と社会体育の見直しに対する考えは。

A 市内の中学校では健康面等に配慮し部活を行わない日を週一日設けている。今後校長会等とも協議をする中で、発育段階に応じたバランスのよい部活動のあり方について適切な方法を模索してまいりたい。

Q 予算編成について財政運営について産業振興について子育て支援について暮らしと生命を守る安全安心で快適なまちづくりについて人の営みと自然環境が調和したまちづくりについて

Q 第5次基本構想の期限を間近に事業継続に対する考えについて

一般質問

一般質問とは、市政全般にわたり市長をはじめ執行機関側に、事業の執行状況や将来的な方針などを質問し、説明を求めめるものです。第4回定例会で一般質問の概要を紹介します。(質問順)

※は、そのほかの質問項目

保健事業の展開にレセプトデータを活用する考えは

永井 一英 議員(公明党)

Q 市は、国民健康保険のレセプト等から得られたデータを積極的に活用し、今後の保健事業にいかしていく考えはあるか。

A 国において、レセプト等のデータを活用し保健事業の推進をはかる「データヘルス計画(仮称)」を、将来的に市町村国保にも導入するとの方針が示されている。現在国保中央会において、新たに国保データベースシステムを構築中であり、年度内にも運用開始が予定されている。このシステムが、本格的に稼働すれば、「健診・医療・介護」のレセプト情報を活用し、精度の高いデータ分析や、それに基づく健康保持増進のための事業展開につながるものと考えている。

無人駅利活用の考えは

森本 政人 議員(市民パワール)

Q 飯田市内には無人駅も増え、緊急時などの対応にも不安がある。駅はかつて地域のコミュニティの場であったが、現在は空洞化し手つかずとなっている。今後まちづくりのために、無人駅を市として積極的に活用する考えはあるか。

A 飯田線は、まちづくりにおいて重要な役割を担ってきたが、現代の車社会においてその利用が減少しており、現在は高校生が利用の中心となっている。今後は、高齢化社会が進むことから公共交通は大事

にしていく必要がある。引き続き沿線地域全体で利用促進に取り組みが必要があり、そうした中で駅の利活用についても意見を頂きながら考えていきたい。

南アルプス登山口までの市道・林道の整備計画は

湊 猛 議員(会派のぞみ)

Q 三遠南信自動車道やリニア中央新幹線の開通を見据えたとき、将来的に南アルプスへの登山者等の増加も予想されるが、登山口までの市道・林道の中長期的な整備計画の考えは。

A 当該市道・林道は、非常に険しい地形、 moreover 地盤のため、落石や、まとまった降雨時の土砂崩落の危険性については、十分認識をしており、現在も、災害発生時には、可能な限り早期復旧へ向けた取り組みを行っている。また、今後も地域住民や、南アルプスを訪れる登山者の安心・安全な通行の確保を図るため、地元・関係機関等と連携し、補助事業を導入するなど落石等危険個所の軽減を図りつつ、維持管理に努めていく。

任意予防接種に補助する考えは

古川 仁 議員(日本共産党)

Q 成人用肺炎球菌などの任意の予防接種に補助をしている自治体もある。市でも特に効果が高いと認められる予防接種には公費負担をしようか。

A 予防接種に関して市は、常に飯田医師会と連携し、対応している。国においても、成人用肺炎球菌などについて、予防

接種法の対象疾病とするかどうかの検討が行われている。こうした状況や今後の動向を注視しながら、引き続き飯田医師会と連携して医療的見地からのアドバイスを受けながら検討していきたい。

市の介護保険制度について

井坪 隆 議員(会派みらい)

Q コメの生産調整の廃止・見直しの方向性など、国の農政の転換を見据えたときに、農業条件が不利な中山間地の農を維持するために、どのように支援すべきと考えるか。

A 農業政策の転換について国からの説明がまだまだ十分ではなく、農家や関係者の多くが不安を感じていると認識している。当該地域のような、農地の集約や大規模経営が向きな地域についても、それに適した農業のやり方を考えていくことが重要である。住民が協力して農業を守る「集落営農」あるいは「中核的な農業者の育成」のために、地域に根差した実践活動を支援しながら地域農業を守る取り組みを進めたい。

市職員の人材育成のあり方は

山崎 昌伸 議員(無党派)

Q 組織において、管理監督者の最大の仕育成にあたっては、業務を通じての指導教育が重要であり、職員の成長力化には組織が一体となって取り組む必要があると考えるが、今後の指導教育の在り方はどうか。

A 「組織」は「人」であり、「組織」として大切なことは、いかに「人」を育てていくかである。その「人」を育てていく職員は、管理監督をする者であると考えている。今後も、組織としての理念や考え

方を共有したうえで、多様な主体の皆さんとの協働の現場が、人材育成の場としても機能するよう、引き続き意識して取り組んでいく。

災害支援の想定は

木下 徳康 議員(会派のぞみ)

Q 東日本大震災の時には、内陸部の都市が、後方からの支援を行う基地的役割を担っていた。今後想定される大規模地震発生時において、当市も三遠南信地域内の災害協定締結都市へ向けた後方支援基地的役割を求められると考えるがどうか。

A 後方支援基地としての役割は、災害の発生地やその規模、形態によって十分想定されるものと考えている。対象となる災害については、規模、当市の被害程度及びその都市の対応能力を勘案する中で、いわゆる想定外の事態に対する当市の臨機応変の対応として求められるものと考えている。

学校登山に對しての考えは

吉川 秋利 議員(会派のぞみ)

Q 子ども時代に感動体験することは、人格形成に果たす役割が大きいと考えられる。その面で、中学校における学校登山はすばらしい教材になると考えるがどうか。

A 学校登山に関しては、生徒の健康面での状況や、登山道の危険性の認識等これまでと状況が大きく異なってきている。緊急時の対応をはじめ万全を期さなければならぬため、多くの課題があると認識しており、それらを総合的にみて学校長が実施についての判断している。一方で、指摘のとおり、豊かな自然に恵まれたこの地域において、登山を教材とするのは大切な一面があると認識しており、学校登山の意義等については校長会等でも共有していきたい。

26年度予算編成について

総務委員会

12月11日に委員会を開催しました。委員会での質疑の様子を紹介します。

議案第128号

飯田市部等設置条例の一部を改正する条例の制定について

案件の概要

平成26年4月1日付けで組織機構改革を行う

機構改革の考え方は

Q 今回の機構改革のコンセプトは。

A これから、5年、10年先を見据えた中で、力を発揮でき、市としての強みを強化していくための組織で今、考えられるベストなものである。

「市民協働環境部」設置の狙いは

Q 新しく設置される「市民協働環境部」の目的と意図、そして新組織でどう変わるか。

A 「市民協働環境部」は、仕事の分野だけにとどまらず、これまで飯田市が市政全般で大切にしてきた市民協働による自治振興と環境政策の推進という2つの目標を達成することを目的としており、部として組織することで、お互いに、よりよい効果を生み強化されることを期待している。また、部の新設により、仕事の仕方が直ちに変わるものではない。

中山間地域施策の位置づけは

Q 中山間地域政策の所管と位置づけは。

A 中山間地域全体の業務は、市民協働環境部が担当し、遠山2地区の観光に関する部分は産業経済部が担当するよう、現在庁内で検討している。

第6次基本構想基本計画に備えた取組みは

Q 第6次基本構想基本計画に備え、先行して設置したリニア推進部の役割を新しい組織の総合政策部へどのように移行するか。

A リニアについては、全庁横断的な取り組みを進め、リニアロードマップで立ち上げるムトス実践会議において議論される戦略的地域づくりの部分は、第6次基本構想基本計画につながるものとして新たな総合政策部の重要な役割である。

リニア開通に向けた将来都市像の位置づけは

Q 小さな世界都市や高付加価値都市圏といった将来の都市像を、また、リーディング事業を今回の機構改革のなかの各部で、どのように位置づけていくか。

議案第129号

飯田市職員の退職手当に関する条例の一部を改正する条例の制定について

案件の概要

国の制度改正に準じて、これまでの退職奨励制度に替え早期退職募集制度を導入すると共に、定年前早期退職特例措置の拡充を行う

年齢別構成の適正化を図るか

Q 職員の年齢別構成の適正化との関係はどうか。

A 職員の年齢別構成には職員数にバラツキがあり、退職者と採用者の人数を考慮して職員採用を行い調整している。早期退職募集制度は、職員の年齢別構成の適正化を図るとともに、平均年齢を維持する観点からも、導入するものである。

役職に対し民間企業の考えが必要では

Q 定員削減のための市の機能・業務をさらに民間に転用することも進める必要があるが、また年功序列のような年齢階層別の役職ではなく、役職定年のような民間での役職に対する考え方も必要ではないか。

A 現在の業務を行うのに現在の職員数は適正であり、これ以上の人員削減は民間委託の導入等を行わないと難しい。退職・採用の人員調整により適正化を進めることとしたいが、早期退職募集制度を使って人員調整を進めることは考えていない。また、役職は職員の年齢だけではなく職員の能力により位置づけている。

請願・陳情審査 市民の願いはこうなった

陳情第6号

★陳情者

飯伊民医連 代表 熊谷嘉隆 氏

■慎重な審査の結果

「不採択」としました

★委員会での主な意見

●制定過程や内容での問題が指摘されており、陳情の趣旨は理解できるものの、法律が12月6日、国会において成立している。本陳情は、法律を制定しないことを求める陳情であり、不採択。
●この法律を今後どうすればよいかについての世論調査で、修正する・廃止するとの回答が82%を超えたとの報道がある中、国民の知る権利、表現の自由がおびやかされる懸念が強く、国会における強行採決により成立した法律は制定すべきでなかったとして、採択。
●今後、施行までの1年以内の間に、国民の理解が得られるような適正な運用に向け、慎重審議を含め、さらに検討を重ねることを求める意見や、市議会としても国の動向を注視していく必要があるという意見が多く、委員から出されました。

社会文教委員会

12月12日に委員会を開催しました。委員会での質疑の様子を紹介します。

議案第146号

飯田市体育施設条例等の一部を改正する条例の制定について

案件の概要

使用料の減免規定等の見直し及び飯田市外の使用者等に係る使用料の見直し

条例運用徹底の方法は

Q 使用許可を受けた使用者が、使用を中止することとしたときは、直ちに申し出なければならぬと規定することのことが、条例の運用にあたり、どう徹底していくか。

A 使用許可証を発行する際に書面及び口頭で周知徹底していきたい。

市民意見の確認方法は

Q 飯田運動公園プールの中学生以下の回数券、千円を千五百円に値上げすることだが、どのような方法で市民の意見を聞いたか。

A 使用料についてはパブリックコメント等を行っていないが、複数回にわたるスポーツ推進審議会での協議等を経てまとめてきた。

議案第149号

飯田市美術館博物館条例の一部を改正する条例の制定について

案件の概要

使用料等の減免規定の見直し及び年間利用券制度の拡充

市民ギャラリーの使用料設定

年間利用券拡充する狙いは

Q 年間利用券に係る観覧料を現在の1種類から3種類に増やすとのことだが、利用増を狙ったものか。

A 郷土の自然文化、菱田春草に触れられるよう、単身者あるいは、大人数の家族の利便性を図り、利用促進するために3種類とした。

市民ギャラリー有料化の理由は

Q 市民ギャラリーを今回有料化することだが、その理由は。また、4月施行するにあたって周知期間が短い、周知の方法は。

A 使用料の見直しについては、19年度から美術館協賛会等で議論を重ねてきた。他の類似施設の使用料金等も踏まえ、受益者負担、公平の原則から、負担をお願いしたい。また、

今まで利用している40団体には、有料化の方針を伝えてきたが、さらに書類及び機会を捉えて丁寧に説明し、理解を求めていきたい。



市民ギャラリー

議案第161号

平成25年度飯田市一般会計補正予算(第5号)案

小中学校の猛暑対策完了するか

Q 猛暑対策として小学校7校、中学校5校の普通教室、特別支援教室に扇風機を基本的に2台ずつ設置することのことが、これにより猛暑に対する対策は完了したとの認識か。また、扇風機は2台ではなく最低4台必要だと思いが、さらに増設する考えはあるか。

A これによりすべて猛暑対策ができたとの認識ではない。教室の大きさや児童数等を鑑み対策を考えていきたい。

埋蔵文化財調査員の確保は

Q 開発行為の増に伴い、埋蔵文化財に係る調査が多くなると予想するが、調査員等必要な人員は確保できるか。

A 調査員には、ある程度の経験、習熟度が必要である。庁舎整備事業に伴う埋蔵文化財調査に際し、新たな作業員を養成できた。今後5年間の調査には対応できると考えている。

青空スクールへの影響は

Q 丸山児童センターの定員を20人増やすため、丸山小学校体育館にあるミーティングルームを改修して使用することのことが、毎週水曜日午後には同じ場所で放課後子ども教室「青空スクール」を行っている。運営に支障はないか。

A その点は承知しており、支障のないよう工夫をしながら運営をしていきたい。

児童センター等の増設予定は

Q 子どもの数は減少するが、一方で保護者が働きやすい環境をつくるために児童館・児童センター・児童クラブの増設を願う声が議会報告会でも聞かれた。今後、増設する考えはあるか。

A 各地区のニーズを見ながら検討をしていきたいが、今のところ新しい施設の設置について予定はない。

産業建設委員会

11月27日及び12月13日に委員会を開催しました。委員会での質疑の様子を紹介します。

議案第135号

飯田市ポイ捨て等防止及び環境美化を推進する市民条例の制定について

案件の概要

ポイ捨て等の防止及び地域の環境美化を推進するための条例を新たに制定する

不法投棄。パトロール員の負担軽減策は

Q 不法投棄パトロール員は、地域によって対象面積など状況が異なるが、負担軽減について、どう考えるか。

A パトロール員については、各まちづくり委員会で1人としている。環境美化重点区域などについては、必要に応じて対応を考えていく。

罰則規定の必要性は

Q 市民から、条例に罰則規定を設けないのかとの声もあるが、どう考えるか。

A モラル向上が条例の主眼であるため、罰則規定は設けていない。不法投棄に対しては、文書による警告や、ごみを片付ける措置命令、命令に従わないときの氏名公表など、対応をしていく。

悪質なケースに対しては、廃棄物の処理及び清掃に関する法律などの法令に基づき厳正に対処してまいりたい。

※この件は、議会報告会を通して、議会としても課題として認識し、数年間にわたり委員会で調査研究し、この間にも市側に対し不法投棄対策の一つとして条例策定を提言するなど取り組んできた経過があります。

この度、環境衛生委員の皆さん等の尽力により、市側から条例として提案され、議会で議決するにあたり、「この条例は環境美化を目的としている。議会としても協力を惜しまないので、この条例をきっかけに、市民全体で環境美化に努めてほしい」旨市側に要望いたしました。

議案第157号

公の施設の指定管理者の指定について(飯田市野底山森林公園)

受け入れ体制は整っているか

Q 指定管理者となる上郷地域まちづくり委員会で、受け入れ組織はできているか。

A この件は、上郷地区の基本構想の中に位置づけられており、自主組

織として『モーリーの森応援隊』の活動が始まっている。

議案第158号

損害賠償の額を定めることについて

案件の概要

平成24年6月18日に市道で発生した落石による車両の損害に係る賠償額の確定

保険内容を見直す必要はないか

Q 保険の上限を超えた分の損害賠償額を一般財源で支出するが、損害賠償保険内容を見直す必要はないか。

A 保険の上限額を見直すためには、保険料の増額を伴うため、今後、予算編成で検討してまいりたい。

議案第161号

平成25年度飯田市一般会計補正予算(第5号)案

新エネルギー推進リーディング事業の予定地区はどこか

Q 分散型エネルギー需給体制調査業務委託料の調査対象地区はどこか。また、計画年数は。

A 対象は、上村・南信濃地区であり、小水力発電を計画している小沢川も含まれる。内容は、発電した電気の系統連係基盤に関する可能性等の調査であり、事業は今年度末までに実施する予定である。

柿畑の防霜ファン設置に補助は

Q 防霜ファン設置に係る国の補助は柿も対象となるか。

A 柿も国の補助対象となっている。補助制度が継続されるよう市として要望してまいりたい。

議案第171号

和解をすることについて

案件の概要

庁用車交通事故に係る和解を行う

■本件については、委員から「再発防止等について議員間の自由討議を行いたい」との動議が出され、これを受けて、議員間の自由討議を行いました。主な意見は次のとおりです。

- 職員の事故直後の対応は適切であったか。
- 職員の事故に係る案件が多いことは問題である。
- 今後このようなことが起きないように、運送業者の対策マニュアルなども参考にして対応するよう市側に求めたい。
- 事故の際、責任ある職員を現場に派遣することも有効と考える。

■本件を踏まえ、今後の再発防止に向け、あらためて市側に要望しました。

リニア推進特別委員会

12月17日に開催し、リニア中央幹線環境評価準備書に対し、長野県知事が意見を述べるに当たったの飯田市の意見24項目について、その原案の説明があり、内容について協議しました。主な質疑の様子を紹介します。

Q JR東海へ飯田線への新駅設置についてかなり強い要望を出したが、それに対しての回答は否定的なものであったため、今回、さらに新駅設置を求めていく意見をあげようとしている。地域の思いを強く伝えるためにも、JR東海へ飯田線への新駅を設置するように求めることをはっきり表現したらどうか。

A アクセスをどうするかについて、JR東海は、現在の飯田線の利用状況から中央自動車道と考えている。しかし、市としては多様な交通手段が必要だと考えている。地域的な特徴から考えると広域的には中央自動車道、伊那谷を見据えればJR飯田線、地域公共交通を考えるとバス利用ということになる。飯田線の利用向上のために県や上伊那郡地域の関係機関と協議を進めている。これを踏まえての表現としている。

Q 市として広域交通拠点として位置づけている以上、新駅が絶対必要だとの覚悟で取り組んでいるか。

A 実際にリニアを利用するだろう県外居住者向けのアンケート結果によると7割が乗り継ぎ手段として鉄道を利用すると答えている。これらの点も踏まえ、JR東海との間で、事業者として取り組むよう協議をしたい。今までの経過も含め、新駅は必要であると考えている。

Q 県へ提出する意見として、「工事説明会ほか、必要な説明会は小さな単位で開催されたい」と、大雑把に1行で記載されている。早期に、かつ、実施計画の前に、地域が要望する説明会を求めていくべきと思うが、どうか。

A 計画ができてからの説明会ではなく、計画の段階でしっかり協議をしてもらいたいとの思いがある。また、事業説明会、用地説明会、工事説明会が予想されるが、対象者が異なるので、説明内容にあった説明会の設定が必要であると考えている。表現については検討する。

Q この事業者見解に対する市としての感想は。

A 準備書の中で示された事項については不安を解消するために意見を提出したが、見解では意見への対応をするとの回答である。しかし具体的には踏み込んだ回答ではないため、念押しを含めて意見を提出するものである。

Q 事業者の見解のなかで、事業者の実行可能な範囲内で、できる限り環境影響の回避又は低減を図るとのくだりが見受けられるが、市としてどう捉えているか。

A 事業者がどこまで行うかは幅があると捉えている。この点も含め事前に綿密な協議を求めたい。また、協議の中で解決していきたい。

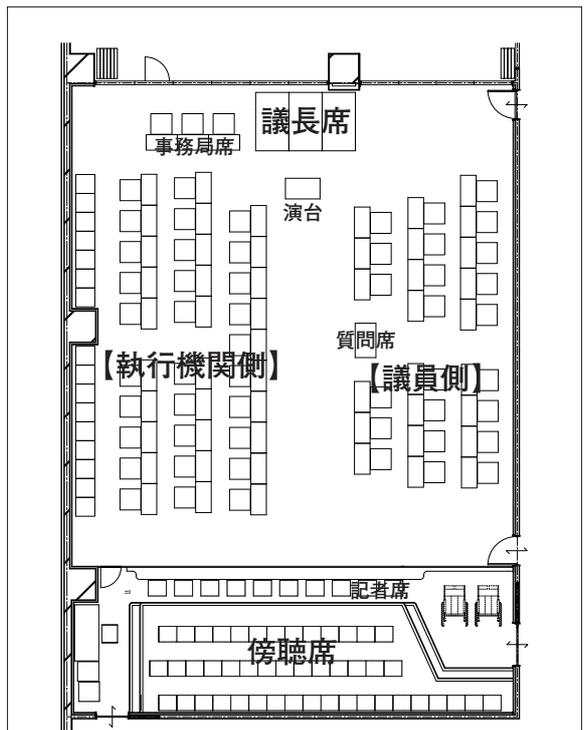
新庁舎の議場は左右対面式に

新庁舎竣工まで1年弱となりました。今議会でも所管する総務委員会協議会において、工事進捗状況などの報告を受けています。

新庁舎においては、議場は議会防災棟として整備されており、新しい議場は万一の災害時に対策本部等多目的な利用ができるよう段差のない床で設計されています。

新しい議場では、まさに「顔が見える議会」として、傍聴席から執行機関側と議員の両者の表情が確認できるよう、議長席をはさみ、向かい合う左右対面式の座席配置とすることを予定しています。地方議会は二元代表制であり、その性質として、執行側と議会とが車の両輪に例えられるため、新しい議場では、それを目に見える形で表現し、より開かれた議会運営を傍聴に来られた市民にも実感いただけるようにしました。

今後もより開かれた議会運営をめざした活動をしていきます。ぜひ傍聴にお越しください。



議場レイアウト予定図

議員紹介

議員の人となりなどを議員自らが紹介します。(議席順に掲載)



～公民館活動とサバ缶～

山崎 昌伸

平成24年4月から私の住んでいる東
 山区の公民館主事を仰せつかり、2年
 任期ということで、日程調整等で迷惑
 を掛けながら現在も携わっております。

東山区では「東鼎を元気に!!全員参加」をスローガンに
 掲げ取り組んで参りましたが、お陰様で、夏の納涼祭、
 秋の文化祭には子どもからお年寄りまで、区民の半数以
 上の方に参加して頂いております。その中で強く感じた
 ことは「担当する自分達が自ら楽しんで活動しなくては、
 周りの人も楽しくならない」ということでした。どうせ
 やるなら役目として「こなす」のではなく『楽しく前向き
 に』という気持ちを共有することが大切です。

気持ちを共有する場面の一つとして事業の計画段階や
 終わった後の飲み会があり、500円程度の会費制で行い
 ますが、その時に必ず登場するのが《サバ缶》です。今
 や東鼎公民館の活動に、サバ缶は無くてはならない存在
 となっております。ちなみに私は《水煮派》です。



～遠山 中郷霜月祭り～

森本 政人

子宝祈願でお袋がお百度参りしたの
 が小嵐稲荷神社。私が34歳の時、雪深
 き小川路峠越えで道に迷いそうになっ
 た際、お狐様に導かれたとの思い強く、遠山谷には深い
 ご縁を感じています。

12月7日かぐらの湯行バスで乗客二人、のんびり紅葉
 観賞しながら神々の里に入りました。まず、アニミズム
 の世界に同化すべくお祓いを受けました。そして、訪れ
 た人々にも酒食が振る舞われ、祝詞・舞を織り交ぜなが
 ら進行、世俗から離れて段々に神々に近づいていく様で
 した。女装の男性四人が踊る羽揃えの舞いで妖艶なる空
 気が流れ、勇壮な剣の舞で緊張感を味わい、滑稽な神太
 夫夫妻の仕草で笑い、水王と土王が登場して煮えたぎる
 湯釜の湯を飛ばす湯切り、続いて木王・火王が加わり、
 「よーっせ、よーっせ」の渦中を飛び回る王たち。トリ
 は宮天伯が四方に矢を放ち「天下泰平・五穀豊穰・目出
 度叶う」と唱え、締め括りはおじや・焼きサンマ・漬物
 とお神酒が振る舞われました。

第188号(H25・10・22発行)
 議員紹介 熊谷 泰人議員の
 「記事題名を 熊谷 泰人議員の
 日頃の心がけが大切」と掲載いた
 しました。が、訂正いたします。
 「スポーツの力(ちから)でしたの
 で、お詫びを申し上げます。」
いいだ市議会だより
掲載内容の訂正について

本会議、委員会とも個人・団体で
 自由に傍聴いただけます。市政運
 営や議会活動の様子を知ることが
 できる絶好の機会ですので、ぜひ
 傍聴にお越しください。事前予約
 は不要ですが、団体等大勢での傍
 聴は事前に議会事務局に連絡をお
 願います。



市議会ウォッチング

議会中継をしています 本会議の様子は飯田ケーブルテレビデジタル714chで中継しているほか、一般質問の様様をユースト
 リーム(インターネットによるオンライン動画配信サービス)で中継しています。ユーストリームは録画映
 像も見られます。ぜひ、ご覧ください。<http://www.city.iida.lg.jp/>

編集後記
 あけましておめでとうございます。昨年市議会は、4委
 員会から3委員会への変更や「広報広聴委員会」の発足など、
 4月の市議会改選後も、新メンバーとともに更なる議会改
 革に取り組んできました。今年はいよいよ、リニアを見据
 えた環境未来都市づくりに向け、具体的な施策を策定して
 いく重要な一年となります。昨年の流行語大賞「今で
 しょ!」ではありませんが、「狐を馬に乗せたよう」と言わ
 れないよう、何事も先延ばしせず、やるべきことは「今や
 る!」の精神で、市民の皆様のご意見をお聞きし、「汗馬の
 労」もいとわない覚悟で務めてまいります。

議会の動き(予定)
 ■議会への請願・陳情の締め切りは
 2月20日(木)午後5時です。
 議会事務局へ提出してください。
 ■第1回(3月)定例会は2月26日(水)開会です。

広報広聴委員会
 委員長 木下 容子 副委員長 湊 猛
 委員 木下 徳康 熊谷 泰人 古川 仁
 新井信一郎 福沢 清 村松まり子